西東京市市民協働推進センター

平成２５年(２０１３)年度第３回運営委員会会議録　要約

■開催日時：平成２５年６月１８日(火)　午後７時～９時
■開催場所：イングビル３階　第１会議室
■出席委員：有馬委員、岸委員、熊田委員、小嶋委員、坂口委員、田辺委員、豊永委員、富沢委員、中村委員、藤江委員　〈以上１０名、五十音順〉
■事務局：内田センター長、神谷、栗山事務局長、丸木地域福祉課長、塚澤主事

１．報　告　事　項

1. 業務報告について

事務局より５月の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、相談対応状況について説明があった。

委員長：主催事業の市民活動団体状況調査における個別取材は、登録している１０５団体全体を対象に行っているのか。

事務局：登録団体全体を対象に個別取材を行っている。

委員長：市民活動相談記録の対応者がセンター長、スタッフ、補佐とあるが、役割の相違はあるのか。

事務局：補佐はセンター長の業務補佐的役割として位置付けている。

委　員：組織体系を変更したのか。

事務局：組織体系を変更したのではなく常勤職員はセンター長の補佐を行う役割であることを明確に呼称することとした。非常勤職員はスタッフとして勤務する。本年４月からセンター長が各職員に責任を持たせる役割の分担に変更した。

２．６月以降の事業について

事務局より６月以降に予定のスタッフ情報交換会、避難所運営ゲーム共催実施、ＮＰＯ市民活動団体～交流の集い～、広報力ＵＰ講座、まちづくり円卓会議などについて説明があった。

委　員：６月６日開催のスタッフ情報交換会出席者について伺いたい。

事務局：公民館、児童館、福祉関係企業、社会福祉協議会、ゆめこらぼスタッフ３名の計７名で実施した。

委　員：重点事業のまちづくり円卓会議「障害のある人もない人も分けない居場所づくり」にハンディキャップのある認知症高齢者のグループホームも対象にしてほしい。

事務局：スタッフ情報交換会でこの件を取り上げ検討したい。

委　員：避難所運営ゲームとはどんなものか。

事務局：もともと静岡県で考案されたゲームで、地震が起きて多くの避難者が仮設避難所に押し寄せて来きたことを想定し、その対処方法を擬似体験するものである。このゲームをとおして地縁組織や市民とのつながりを期待したい。

委　員：６月２９日田無庁舎旧食堂で実施予定の市民活動ネットワーク「ＮＰＯ市民活動団体～交流の集い～」は総花的ではなく団体が交流するための仕掛けがあると聞いている。具体的な進行方法を教えて欲しい。

事務局：ゆめこらぼが参加団体からの事前情報に基づいた団体活動の予定などの情報をまとめたカードを用意し、５～６人でひとつのテーブルを囲み、このカード情報を基にそれぞれが自己紹介・団体紹介していただく。グループの入れ替えをしながら３回繰り返すことで、より多くの団体同士が知り合い、交流できるきっかけをつくりたい。また、終了後３０分ほどは自由に交流できる時間を設けている。

委員長：参加する団体の方からの報告を期待したい。

２．審議事項

１．前回の会議録について

委員長：「お越しいただく」との表現を「参加いただく」に変更の上、確定稿とする。

３．協議事項

１．中間報告について

事務局より団体の実態調査の中間報告として、団体の課題とゆめこらぼに対する要望について説明があった。

委　長：団体の課題で「市民や企業への広報・普及活動」への要望が突出して多いが、この理由が知りたい。

委　員：一般の団体にとって、掲示板や市報などの行政の広報活動には制限があり多くの情報を発信することが難しい。

事務局：ＮＰＯ市民フェスティバルなどに市民の参加が少なく、ゆめこらぼや団体の認知度が低いのが現状。

委　員：ゆめこらぼを情報発信の場として大きく機能させる必要があると考える。

事務局：前回の調査では「市民や企業への広報・普及活動」と同様に「資金援助」の要望が多かった。

委員長：今後、ゆめこらぼに対し何を期待しているか、に基づき事業計画を練り、市民にむけて情報を如何に露出していくかを議論する価値は確かにある。

委　員：チラシ等を公民館やゆめこらぼに置いても、限定された人しか見ない。ゆめこらぼで新しい方法を検討してほしい。

委員長：ゆめこらぼで広報に関する講座を開くのは、いかがか。

委　員：設問の「市民や企業への広報・普及活動」は市民向けと企業向けに分けるべきと考える。

事務局：今回は今までの設問を参考にアンケートを行い、各取材でフォローしているが今後ご意見を参考にしたい。取材では企業へのアプローチや冊子を希望する意見もあった。

委員長：報告が終わった段階で分析を加えた報告を頂き、運営委員会でゆめこらぼに何が求められているか、あるいは団体の課題の中でどういうことを事業化できるかなど議論する時間を取りたい。集計したアンケート結果を是非活かしてほしい。

事務局：アンケート集計結果の全容は７～８月にかけて報告する予定である。

２．調査・研究事業について

事務局より協働に関する情報収集の企画案について説明があった。

委　員：調査研究対象として想定している大規模マンションはいくつあるのか。新しいマンションと旧来の集合住宅とでは住民層が異なるので、一方に偏らないように対象を選択する必要があると考える。

委　員：大規模マンションの共有スペース等を利用して、新たなコミュニティの繋がりをつくることができると考える。面白い視点の企画だと思う。

事務局：賛同してくれるＮＰＯのご意見等を十分勘案した上で実行したい。

委員長：３点ほど伺いたい。何を調査し、何を研究するのか。昨年度、マンションの掲示板等を利用してゆめこらぼ通信など、内容を吟味して掲示するという取り組みの現状はどうなっているのか。交流を図るという具体的な内容を知りたい。

事務局：市民力を向上させ協働に向かっていくための基礎となる重要なステップと考える。大規模マンションをひとつの場としてとらえ、市民力向上のための手段を考えつつ施策をしていくというつながりを目的とした事業と考えている。

委員長：この企画は事業として大賛成であるが、調査・研究事業という枠組みでは内容的に違うのではないか。地縁でくくれない大規模マンションやコミュニティに対して、市民力を

向上さるための活動としてのインプットとアウトプットを明確に集約するべきと考える。
事務局：検討する。掲示板に関してはマンション等１０か所にイベント情報を掲示しつながっている。具体的な内容としては、賛同していただけるＮＰＯ団体の方を募集し議論をしながらマンションの方々を対象にして活動をしていきたい。
委　員：調査研究の具体的な組み立て方を決めて実施し、報告書にすれば良い。

３．市民活動団体・ＮＰＯ支援事業について
事務局より、週末講座企画書案について説明があった。
委　長：週末の来訪者が少ないのであれば火曜日を休日とせず日曜日を定休とする考えもある。
事務局：当センターは社会福祉協議会が西東京市から受託する際に週末も夜間も開館する契約となっている。色々と手だてをとった結果をもってしても来訪者が少ないのであれば、週末夜間の閉館を市に提案することもあり得ると考えている。公民館は夜でも多くの市民が利用している。来訪者が少ない理由を分析し、できるだけのことをして結論を出したい。
委　員：市民感覚からいえば省エネの観点から夜間は閉館するべきと考える。
委　長：サラリーマンが打ち合わせに使うには平日の夜が使い易く便利と考える。
委　員：埼玉県の某公設公営施設は週末の利用者が多いと聞く。聴取し実態調査したらどうか。
委員長：打ち合わせや印刷、コピーなど、多目的に使える場所は貴重であり、利用者は年々増加している。センターから利用方法を提案してほしい。
委員長: 現在は持ち込んだ軽食の飲食は可能であり、カフェとしての利用なども可能ではないか。
委　員: 昼夜を問わず、センター職員の業務場所と仕切りがない中での団体の会議は使いづらい。
委員長：集客のための選択肢はいくつかあるし、夜間は事務作業に徹する案、また閉館の提案をすることも含めて、センターの目的を考えることが重要だ。

４．そ　の　他

１．次回運営委委員会日程について

■日時：7 月 16 日（火） 19 時～21 時
■会場：イングビル３階　第 1,2 会議室